

徳山工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	国語総合Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	0095		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	機械電気工学科		対象学年	3	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	京都書房「国語表現」, 京都書房「国語表現 準拠ノート」				
担当教員	一色 誠子				
到達目標					
文章を的確に読み、考え、自らの意見を的確に表現できることを目標とする。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目 1	文章を正確に読み取り、筆者見解に対して自身の意見を持ち表記することができる。		文章を正確に読み取り、筆者見解に対して自身の意見を持つことができる。		文章を正確に読み取り、筆者見解に対して自身の意見を持つことができない。
評価項目 2	文章構成の型を用いた構造的で、根拠に基づいた小論文を書くことができる。		文章構成の型を用い、根拠を明示した小論文を書くことができる。		文章構成の型を用い、根拠を明示した小論文を書くことができない。
学科の到達目標項目との関係					
到達目標 A 2					
教育方法等					
概要	「話す」「聞く(聴く)」「書く」の表現力をつけるために必要な「考える力」を、様々な文章を「読み」「考える」ことで身につけていく。同時に、表現するために必要な基礎的事項をテキストを用いて学んでいく。最終的に、学んだことが実践に活かすことができるかどうかを表現すること(小論文)で確認していく。				
授業の進め方・方法	"考える力"を身につけていくために、テキストを用いて文章を正しく読み取っていく。適宜、グループワークも取り入れていく。授業では、その時間の学習の指針となり学習履歴となる「学習シート」を毎時間用意する。				
注意点	国語辞典(電子辞書も可)は、毎時間携帯すること。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス: 授業の進め方について導入: 読むこと、書くことに慣れる	シラバスを用いて授業の概要、到達目標、成績評価方法を理解できる。短作文を書き、数人からコメントをもらい、現在の自分の表現力を客観的に見ることができる。	
		2週	言葉に変える I	「箇条書きを文章として表現する」ことを、短作文で実践することができる。	
		3週	言葉に変える II	「絵を言葉にする」ことを目的に、対象者を決め絵を文章で説明することができる。	
		4週	言葉に変える III	対象者を決めて、順序、手順、道案内の文を作成することができる。	
		5週	考えること/書くこと I	説明文を書くことができる。	
		6週	考えること/書くこと II	新聞記事を読み、説明文を書くことができる。	
		7週	待遇表現	敬語によるコミュニケーションと、待遇表現について理解することができる。正しい敬意表現を練習問題を通して、理解を深めることができる。	
		8週	発想を豊かに/言葉を遊ぶ I	オノマトペを取り入れた「フォトイラストで五七五」を作成することで、自己表現をすることができる。文によるコミュニケーションを、リレー短文で実践することができる。	
	2ndQ	9週	発想を豊かに/言葉を遊ぶ II	キーワードになる四枚のイラストに短い物語を作成することができる。適切な表現と正しい表記をすることができる。	
		10週	通信文を書き分ける	手紙の書き方(ビジネスレターおよびe-mail含む)、手紙の敬意表現、ビジネスの敬意表現を、実作を通して理解を深めることができる。	
		11週	創作者になろう I	随想(江國香織「安っぽい飴の色」)を読み、文中の語句の意味を正しく理解することができる。	
		12週	創作者になろう II	随想(江國香織「安っぽい飴の色」)を読み、筆者の意図を理解することができる。	
		13週	創作者になろう III	小説(夏目漱石「夢十夜」より「第一夜」)を読み、文中の語句の意味を正しく理解することができる。	
		14週	創作者になろう IV	小説(夏目漱石「夢十夜」より「第一夜」)を読み、作者の意図を理解することができる。	
		15週	期末試験		
		16週	期末試験答案返却と解説 小論文導入	前期末試験の解説により、前期の学習内容の理解を深めることができる。小論文の導入として、小論文と作文の違いについて理解することができる。	
後期	3rdQ	1週	小論文入門 I ——小論文の基礎	「文章の構成」、「文章の型」について理解することができる。また、「構成ノート」の作成ができる。	
		2週	小論文入門 II ——小論文作成法	小論文を作成するために必要な、「マッピング・メモ」、「アウトライン」、「引用のルール」について理解することができる。	
		3週	小論文入門 III ——「論証」とは?	意見の裏づけとなる「論証」について理解し、例文を作成することができる。	

4thQ	4週	小論文入門 IV ——文章の設計図	「文章の設計図」を作り、小論文作成の準備をすることができる。
	5週	小論文の作成（1回目）	小論文と作文の違いを意識し、「文章の設計図」をもとに小論文を作成することができる。
	6週	表現を工夫する I	「論理的な文章を書くための文体と修辞」、「文のつなぎ方」について理解することができる。
	7週	表現を工夫する II	文章のわかりやすさと推敲の要点について、理解することができる。
	8週	読み、考え、書く I	意見文とは何かを理解することができる。
	9週	読み、考え、書く II	評論文を読み、文中の語句を正しく理解することができる。
	10週	読み、考え、書く III	評論文を読み、論点を整理することができる。
	11週	読み、考え、書く IV	評論文に対しての、意見を整理することができる。
	12週	読み、考え、書く V	評論文に対しての個人の見解をまとめ、その裏付けとなる根拠をまとめることができる。
	13週	小論文作成準備	意見の裏付けとなる根拠を明確にし、「文章の設計図」を作成することができる。
	14週	小論文の作成（2回目）	意見の裏付けとなる根拠を明確にし、「文章の設計図」をもとに、小論文を作成することができる。
	15週	後期末試験	
	16週	試験の答案返却と解説	後期末試験の解説により、前期の学習内容の理解を深めることができる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	3
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	2
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	1
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3
新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3				

評価割合

	試験	小論文	グループワーク	合計
総合評価割合	70	20	10	100
総合的能力	70	20	10	100